

第4章 まとめ

第4章 まとめ

今回提案した離職者訓練における職業能力評価の仕組（離職者訓練における職業能力評価に係る手引き）については、良いものとしてできあがったと考える。検討部会の委員からも「手引きは非常によくでき上がっており、よく書き込まれている」という意見をいただき、好評を得ることができた。

訓練課題確認シートは、職業訓練における職業能力評価として「受講者が何を学び、何がどれだけできるのか」を表すよう配慮しているが、訓練課題（実技）のねらいによって職業能力評価の視点が変わるため、訓練課題によって項目の大きさが異なることが予想される。客観的な職業能力評価の方法として標準化を図る上で今後は、実際にこの職業能力評価の仕組を活用した事例などを収集し、一定の指針として提供していきたい。

訓練課題（実技）は、職業訓練の成果を評価する内容とするために訓練内容をどのように取り入れ、実際の企業のニーズや仕事に密接な内容となっているかが重要である。

今回作成した訓練課題は、今後職業能力開発施設において試行し、企業等へ訓練課題や訓練課題の職業能力評価についてヒアリングを実施することにより、更なる充実を図ることを予定している。

離職者訓練における職業能力評価の仕組についてまとめた離職者訓練における職業能力評価に係る手引きを基に訓練課題確認シートによる職業能力評価を実際実施することにより、その結果から得られたことを職業訓練に活かし、訓練課題と訓練内容の両方の充実を図ることが必要である。

本研究における離職者訓練における職業能力評価は技能等に焦点をあてたものとなっており、ヒューマンスキルやコンセプチュアルスキル等については、検討を行っていない。

しかし、それらの能力を採用の判断基準として捉えている企業は多く、技能等と同様に重要であると考えているとみられる。この件については、委員からの意見にもあったように、将来的には、「公的な職業能力開発施設で、技能等以外を教えるべきかどうか、教えることができるかどうかという点」についても議論を行い、職業訓練におけるヒューマンスキルやコンセプチュアルスキル等の職業訓練のあり方や職業能力評価について検討することは大きな課題となる。

